

オフィス環境の見直しで 生産性の向上を実現させる！

昨今は働き方の活発化・柔軟化によってリモートワークの導入が進んだり、様々な工夫をしたりする企業・組織が増えています。その状況下で、社内コミュニケーションの効率化を図り、生産性を向上させるためにはどのような環境が最適なのかを考えると、従来のオフィススタイルを今一度見直すことが求められます。本稿で、弊社の事例をベースに課題解決のヒントを紹介します。

【弊社事例】 オフィス環境の見直し

● コミュニケーション、アイデア、プロジェクトを推進させる
新しい時代の働き方に合わせて効率的なオフィス環境の構築が求められる中、弊社は旧オフィス契約の満了を機に、社内の業務効率化を重視し新しいオフィスへの移

転を決定しました。

旧オフィスは、ビル内の異なるフロアにある4つの部屋に部署や会議室を分散させた構造で、これにより部署間のコミュニケーションが滞り、階段の移動によるロス時間や体力の消耗が発生し、業務効率が低下するという課題がありました。

新しいオフィスでは、この課題に対処するためワンフロアに全社員を収斂させたことで、余計な移動時間を減らし他部署との円滑な情報共有と連携（コミュニケーション）が促進され、役員クラスとも同じフロアのため、これにより業務プロセスがシームレスにつながり迅速な意思決定が可能となりました。

また、一度の口頭による情報共有で社内全体への周知ができ、新しいアイデアやプロジェクトが生まれやすい環境が整い、生産性が向上したのです。

● モチベーションアップ、ヘルスケアを推進させる

大まかなオフィス構造の改善の他にも、仕事へのモチベーションにもつながると考え、こだわりを持ち進めたのがオフィス環境の見直しです。

「旧オフィス」

空気の流れが悪く必要最低限のものを詰め込んだ環境で、デスクの位置によっては気温差や日差しの影響がひどく、社員の体調に影響を及ぼすことも課題であった。

◀ 改善策

「新オフィス」

社員のモチベーション向上を狙いモダンで開放的なデザインを採用。天井が高くクリエイティブな空間は発想と仕事の柔軟性を促進させ、社外からの訪問者にも好評で取引先との交流にも良い影響をもたらす。

空調設備や照明器具、日差しの影響を防ぐブラインド、パソコン作業を行うデスク周りの環境改善（オープンな配置、作業デスク・チェアの導入、コード収納）が、社



ワンフロアにまとめられた新オフィス (写真上)
フロアに配置された自由に使えるオープンスペース (写真右)

図1 生産性向上のためのオフィス環境チェックポイント！

- 社内の連絡はテキストベースが主要
- 部署ごとに別フロアに分かれている
- 気軽に部署を超えてミーティングができるオープンスペースはない
- 業務以外に掃除や移動でロスタイムが発生している

上記のひとつでも当てはまったら、生産性を向上させるための工夫ができる可能性があります。

● 社内コミュニケーションの活性化
・ アイデアやプロジェクトを

● オフィス環境のチェックポイント！
・ 社員の健康負担を軽減させる。
・ 社員のモチベーションアップ
・ 社員の健康負担を軽減

● オフィス環境のチェック
図1に「生産性向上のためのオフィス環境チェックポイント！」を記載しました。貴社の状況をご確認ください。

ここに焦点を当てることで、社員同士が自由に情報を共有し、クリエイティブな発想が生まれる土壌を築くことを目指しました。

「アイデアの生まれやすい環境を創り出し、コミュニケーションの活性化を促進する」

猛スピードで時代が変わりゆく中で常時ビジネスの第一線に留まるためには、先取りしたクリエイティブなアイデアが必須です。そこで、弊社が掲げた新オフィスのコンセプトは以下の通りです。

最終的に確立される
ワーク・ライフ・バランス

共有しやすい環境
・ 社員のモチベーションアップ
・ 社員の健康負担を軽減

では、前述した弊社の取り組みと改善結果を、もう少し詳しく紹介します。

●伝達ミスの解消と生産性アップ

これまで階数が違う社員同士は、チャットのテキストベースでの伝達が主な連絡手段で、便利なように見えてもすぐに確認が必要な連絡に対し「気づくの間に時間がかかる」「複雑なニュアンスの伝達は伝わりきらない」という問題がありました。それがフラットなワンフロアとなり、目視確認で口頭連携が取れ、改善点やアイデアを思いつく余裕が生まれました。

●すぐに集まって

ミーティングができる環境

また、複数人でのミーティングをしやすいするために専用の会議室を設けるだけでなく、フロアには集まりやすいオープンスペースを設置しました。

急な相談やアイデアの共有もスムーズに行われるようになり、チーム全体での連携が強化されて、

新たなプロジェクトやイノベーションの発展が期待できます。

●企業にも社員にも

大きなメリット

アイデアの生まれやすいオフィス環境を整えることで、新しい視点や革新的なアプローチが促進され、組織全体の成長と競争力の向上につながります。

①アイデアが生まれやすくなる

社員が柔軟な発想をしやすい環境が整うことで、新しい製品やサービスの開発、業務プロセスの改善などが生まれやすくなり、企業は市場において差別化を図り、競合他社よりも先駆的な存在となる可能性が高まります。

②アイデアの多様性によって

問題解決力が向上

様々なバックグラウンドや経験を持つ社員が自由にアイデアを出し合うことで、多角的で効果的な解決策が導き出されます。異なる視点から問題にアプローチすることは、創造性と効率性の向上に寄

与し企業の持続的な成功につながります。

③社員のモチベーション向上

アイデアの生まれやすい環境は社員のモチベーション向上にも寄与し、自分のアイデアが評価されて、実現される可能性があると感じることで仕事に対する情熱や意欲が大いに高まります。これはチーム全体のエンゲージメント向上につながり、組織内にポジティブな雰囲気醸成します。

以上、改善結果によるメリットを紹介しましたが、これは社員がしっかりと仕事に取り組めることを意味しており、結果、より良い「ワーク・ライフ・バランス」の循環が確立されるわけです。総じて、アイデアの生まれやすい環境は、企業の競争優位性を高め社員の満足度やワーク・ライフ・バランスの向上に寄与します。

創造性と柔軟性を重視した職場文化の構築は、今、変化の激しいビジネス環境において不可欠な要素となりつつあります。

業務時間を確保して 仕事に集中するための施策

●社内清掃の見えないコスト

弊社が、新しいオフィス環境において業務時間の確保と効率的な仕事への集中を実現するため、さらに考慮したのが「社内清掃」についてです。

旧オフィスでは、毎週月曜日に4フロアに分かれて社員が自ら清掃をしていました。清掃自体は悪いことではありません。ところが通常9時30分からの業務が、週の初日に、清掃のため10時開始になってしまうという大幅な業務時間の削減になっていました。

新オフィスでは、ワンフロアなので清掃箇所を大幅に減らすことができ、さらに時間がかかりがちな水回りは、毎日、ビル清掃のサービスが入るオフィスを選んだことにより、社員の清掃区域が削減されました。

現在では、オフィス内の少ない拭き掃除のみ社員が担当することになったので、元々25名で行って

図2 清掃作業に使われていた時間

- 1日あたりの清掃作業時間
25名×20分=500分(8時間20分)
- 1ヶ月当たり4回の清掃作業時間
500分×4回=2,000分(33時間20分)
- 1年間の清掃作業時間
2,000分×12ヶ月=24,000分(400時間)

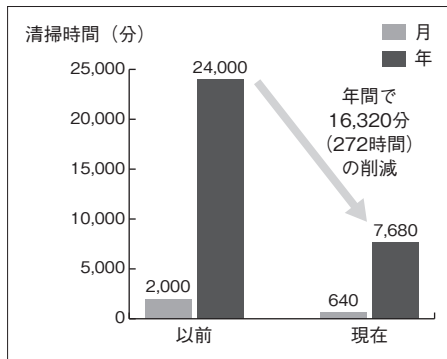
本来の業務外の清掃に
これらの時間を取られている事になります

いた清掃を7〜8名で構成する当番制のグループを作ること、交代で行うことになりました。

毎週行っていた清掃を一人あたり1ヶ月に1回程度の回数で実施できるように、社員の負担は大幅に減ることになります。

弊社例では、毎週月曜日の朝の清掃に、25名の社員が20分の時間を取られていました。たかが1週間で20分だと考えがちですが、年間で見るとかなりの時間にな

図3 清掃時間の推移



ります(図2)。

この時間を本来の業務に当てていたら、会社の利益になる仕事や社員に十分な事務処理時間を与えられているはず。

現在は改善により、1日あたり8名×20分=160分(2時間40分)、1ヶ月あたり640分(10時間40分)、1年で7680分(128時間)まで削減することができました(図3)。

このように、社員清掃には「見えないコスト」が多分にかかっています。業務効率、生産性向上を目指すのであれば、清掃を外注に

依頼して社員への負担を軽減させることが、実は大幅なコストカットにつながるのです。

また、外部委託された清掃サービスは、専門知識を持ったプロフェッショナルによって行われるためオフィス環境全体の清潔さと衛生状態が確保されます。定期的な清掃により、環境の清潔さが保たれることで社員の健康促進にも寄与できます。

清掃の外部委託により、社員は業務時間を確保することができ、また、清掃作業から解放することで仕事に集中する余裕が生まれま

す。これにより、業務効率が向上し生産性が向上すると同時に、社員のストレスも軽減され、生産性と快適性を向上させることが可能になります。

このような取り組みは、企業の持続可能な成長と社員の幸福向上の鍵となります。

【POINT】

弊社のオフィス移転事例をベースに、生産性向上のためのオフィ

ス環境の改善を紹介しました。

弊社のようなオフィス移転という大きなイベントがなくても、社員が快適な職場環境で働き、その結果、自社の生産性向上を達成させるには、現在のオフィス環境の問題点を定期的に見直してみるこ

とが重要です。

例えば、オフィスの物理的な環境改善には至らなくとも、社内コミュニケーションの活性化に問題が生じているのであれば、空いているスペースを有効活用して、フランクにミーティングができるスペースを開放することができるかもしれません。

また、清掃時間のように業務時間を減らせるような作業が見つかれば、作業範囲を見直し、外注を検討することは改善できる範疇と考えられます。

中小・小規模企業は自社を永続的に発展させるために、働く環境を見直して生産性向上のために今できることを、まずは、この機会に全社員で一度共有してみてください。